

## 2026 年度 知財問題研究会参加者募集について

※JIPA 内に「知財事務・管理、知財システム管理担当者（\*）」向けのコミュニティをつくってほしいというご要望にお応えし、希望テーマに「知財事務・管理、知財システム管理」を追加しました。

\* 知財事務・管理、知財システム管理担当者：経理や各種期限管理などを含む社内知財管理、年金管理、特許管理システムの運用等の担当者を想定しています。

2026 年 4 月 1 日

一般社団法人日本知的財産協会

### ◆ お申込み方法

以下記載の開催要項をご確認いただき、「[協会会員サービス](#)」にログインの上、「委員募集＞申込み」メニューから「**メンバー募集（知財問題）**」を選択のうえ、お手続きをお願いいたします。



※2025 年度にご参加いただいた方で、2026 年度も引き続き参加を希望される場合は、改めてお申込みが必要です。なお、**最初の応募者登録は会員代表・事務担当の方のみ行えます。登録後は、「委員募集＞申込み」メニューから応募者ご本人が応募フォームに入力できます。**

▼「希望組織\*」にて、ご希望の地区をお間違いのないように選択ください、



### ◆ 特記事項

➤ **希望テーマについて：**

※第 2 希望・第 3 希望を含め、希望がない欄には「なし」と入力してください

**検討したいテーマ（1：知財戦略、2：知財教育、3：知財組織マネジメント、4：知財実務（出願・権利化）、5：知財事務・管理、6：知財システム管理）がある場合は、番号で記載してください。特にご希望がない場合は、「なし」としてください。**

\*各テーマにおいて AI に関する検討も想定されることから、AI は独立したテーマとしては設定していません。

\*なるべくご希望に沿うようにグループ分けいたしますが、必ずしもご希望のテーマとならない場合がございます。あらかじめご了承ください。

\*具体的な検討内容は、各グループでの話し合いにより決定されます。

- **申込フォームのアンケート項目について：**
  - (**関西地区希望者のみ必須**) 「中四九グループ希望」の場合は、その旨ご記載ください。
  - (**希望テーマ具体的内容**) 希望テーマに関して、もし具体的な内容がございましたら、こちらにご記載ください。
- **各社より複数名のご参加も可能です**

◆ **申込マニュアル**  ←クリック

◆ **お申込み期限** **2026年4月17日(金)**

◆ **2026年度全体会合開催予定日**

※スケジュールに変更が生じることもございますので、あらかじめご了承ください。

- ① **関東地区：**
  - グループ別ディスカッション：5月(キックオフ)～3月までの原則1回/月、対面/ハイブリッド/オンライン \*4月中に事務局よりグループ分けおよび活動案内をいたします
  - 成果発表会 2027/3/11(木)13:00-17:00 + 懇親会 \*現地開催 (野村カンファレンスプラザ)
- ② **関西地区：**
  - 全体キックオフ 2026/5/20(水) 原則対面/中四九のみハイブリッド
  - グループ別ディスカッション：6月～2月の原則1回/月、対面/ハイブリッド/オンライン
  - 成果発表会 2027/3/3(水) JIPA 関西事務所と Zoom のハイブリッド開催、懇親会
- ③ **東海地区：**2026年度の日程は現時点では未定
  - 第1回全体会合 (7月頃) 研究テーマとグループを決定後、グループ別ディスカッション
  - 第2回全体会合 (11月頃) 前期成果発表会後、研究テーマを変更しグループを再編成
  - 第3回全体会合 (3月頃) 後期成果発表会

## <知財問題研究会について>

### 1) 開催趣旨

知財問題研究会は、業種の壁を越えて、参加者間の交流ならびに様々な立場から知財の諸問題について、相互に情報・意見交換を行うと共に、相互研鑽を目的に開催しております。その為、知財関係の実務経験年数、及び協会での活動経験の有無を問わず多くの方にご参加いただき、そのなかで協会活動へのご理解も深めていただくと幸いです。

### 2) 編成

メンバーは毎年募集し、関東、関西(近畿・中国・四国・九州)、東海地区別にそれぞれ10名程度のグループに編成し、討議会合を持つ形式とします。また、関西地区はその対象が近畿から中国・四国・九州と広範囲に渡りますので、対面会合を重視した場合、地域的に集まり易いよう、中四九地区で1～2グループを編成します。

※当該地区の参加希望者は申込フォームの希望テーマ記入欄に「中四九グループ希望」と記載して下さい。

### 3) 運営方法

スタートの準備は事務局が行いますが、その後はメンバーによる自主運営とします。

#### ◇ 会合の進め方

関東、関西、東海の地区ごとのそれぞれの事情により多少異なりますが、原則として次のように進めていただいております。

毎月1回程度、①Web、②Web と集合型の組合せ、③集合型（空いていれば協会事務所またはメンバー会社の会議室）でグループ会合を開催し、研究テーマ（テーマ数は任意で1～2）を討議します。意見交換の場として全体会合を開催し、各グループでの討議の結果を発表（含む質疑応答）していただきます。運営の詳細につきましてはグループ編成と併せてメールにてご連絡いたします。

#### ◇ 会合会費

グループの懇親会費はメンバーの自己負担となります。（JIPA 領収書を PDF 発行いたします。各自ダウンロードください）

#### ◇ テーマについて

テーマについては、各グループでの話し合いによって決定します。

（例）知財戦略、知財教育、知財組織マネジメント、知財実務（出願・権利化）、知財事務・管理、知財システム管理

**<お問い合わせ> フォームでは、該当する項目（●）を選択してください。**

<https://www.jipa.or.jp/general-info/faq/contact>

【協会会員サービスに関して】 ⇒ ●協会会員サービス（ログイン ID 照会、操作方法）

【各研究会の募集要項・申込みに関して】 ⇒ ●委員募集関連

※対象の研究会（知財問題、少数知財）と地区（関東・関西・東海）を内容欄にご記載ください。

### <（ご参考）過去テーマ>

**関東：**

#### **（2025 年度）**

- ◎ 企業特性に適合する知財戦略とは
- ◎ 事業戦略と知財戦略の連動
- ◎ 知財の役割
- ◎ 特許取得の意義
- ◎ 事業に資する特許調査・分析
- ◎ 知財情報の開示
- ◎ IR・CGC
- ◎ 生成 AI（生成 AI 時代の人材育成、知財関連の生成 AI ツール、AI 時代に知財部はどう生きるか、生成 AI 時代の「新・知財スキル標準」へのアップデート）
- ◎ 業務効率化
- ◎ 知財教育・風土醸成

- ◎ 知財部内の学び合い
- ◎ 知財部内のコミュニケーション活性化
- ◎ 研究部門の知財活動へのモチベーション
- ◎ 報奨制度

#### **(2024 年度)**

- ◎ 知財業務の効率化に関する意見交換
- ◎ 知的財産戦略 ～知財部門によるコーディネート～
- ◎ 統合報告書における知的財産情報の開示について
- ◎ IP ランドスケープについて
- ◎ 業務効率化ツールについて
- ◎ 知財プレゼンスの向上に向けた各社の取り組み
- ◎ 最強の知財部長育成計画
- ◎ 知財とセンスメイキング
- ◎ 知財部門で働く人のエンゲージメント向上に関する検討
- ◎ 知財プレゼンス向上

#### **関西：**

#### **(2025 年度)**

- ◎ 「これから」へ結び付ける知財戦略 ～K D Sの活用例を利用したアプローチ～  
※ K D S : 「経営デザインシート」の略称です。
- ◎ 令和における知財マインドセット ～新時代の知財を再定義する～
- ◎ 知財部が事業視点を持つには？
- ◎ 事業との整合からスタートする知財戦略

#### **(2024 年度)**

- ◎ 経営戦略や事業戦略に貢献する知財部門の取り組み
- ◎ 知的財産の活性化～様々な角度からの検証～
- ◎ 社内知財プレゼンスの向上施策 ～実戦的リテラシー改革～
- ◎ IPL を成功させるために知財部門/担当者に求められる行動と能力/スキル/心構え

#### **東海：**

#### **(2025 年度) 前期と後期でグループとテーマの再編成**

- ◎ 知財戦略：・IP ランドスケープを成功させるためには  
・市場のシェア拡大に寄与する知財戦略の研究
- ◎ 知財教育：・事業部門に対する知財マインドの向上・開発部署にたいする発明創出への動機付け
- ◎ 知財組織マネジメント：・各社知財組織の特徴分析・魅力ある知財部になるための反省会
- ◎ 知財実務：・AI、知財部に降臨。～めんどろな中間処理はA I にポイッ！～  
・特許業務の判断方針の研究

#### **(2024 年度) 前期と後期でグループとテーマを再編成**

- ◎ 国内外への出願戦略（戦略）
- ◎ 経営層に向けた知財部からの情報発信（経営貢献）
- ◎ 知財部門の組織・職務・人材の在り方・人材育成（組織・人材）
- ◎ 特許情報分析・ツール活用（調査・情報活用）

## <過去の担当理事コメント>

知財問題研究会では、業種の枠を超えたメンバー構成で、知財部門の新たな役割、経営層への提言、技術・事業の大変革期における知財戦略、さらに実務ノウハウまで、幅広いテーマを活発に議論しています。社内では糸口がつかめない課題でも、他メンバーの経験や発想を聞くことにより、既成概念から解き放たれ、解決のヒントが得られます。必要に応じ、メンバー企業への訪問も実施しています。他業種の多様な視点に触れてその文化を理解することは、広い視野の中で自社を見つめ直す機会でもあり、共創によるビジネスモデルの形成やオープンイノベーションで求められる柔軟な発想力が養われます。熱意あふれる相互啓発の中で築かれた人脈は、生涯の財産となります。知財マネジメントとして一段の飛躍を目指す方、知財マネジメントを目指しより高い視座で知財業務に取り組みたい方は、是非、ご参加ください。

この知財問題研究会は各地域の日本知的財産協会（JIPPA）会員企業のメンバーが身近な知財の課題を8名程度のグループで1年間、定期的集まり議論する会です。1年間同じメンバーと話し合うことになるので、いろいろなJIPPAの会合の中でも特にメンバー間のつながりが強くなる会となっています。また、地域毎の会となっているので何か相談したいことがあるときに、気軽に近くのメンバーの会社等に出向き相談できるというメリットもあります。そして、違う業種・業界、違う職位、違う会社規模のメンバーが集うため、同じ課題でもメンバー毎に課題のとらえ方が大きく違い、課題に対する視野が大きく広がり、解決策が早く見つかる場合があります。今後、多くの困難な知財業務を担う皆様には、知財歴などに関係なく、是非参加していただきたいと考えております。

知的財産に関するニュースを見かけない日がないほど現在では知財が身の回りの出来事として捕らえられてきています。皆様方においても、知財権を取得することのみではなく、知財をうまく活かしたり、特許情報等から他社の開発動向を分析し経営に活かすことが一層求められて来ているものと思います。そのために新たな仕組みを作らなければならないこと、変えていかなければならないこと等、取り組まなければならない問題が複雑化しています。第4次産業革命と言われている現在においては猶更この感が強いのではないのでしょうか。東海地区の知財問題研究会では、ベテランの方のみではなく若い方々も多数参加して、身の回りに起こる様々な知財が絡んだ問題を業種・業界・世代の枠を超えた視点で意見交換しています。他社との議論を重ねることで解決の道筋が見えにくい問題についても何らかのヒントを与えてくれる場になっているものと思います。この研究会を通じた人的ネットワークの構築のためにも、是非、参加されることをご検討ください。

日々知財業務に取り組む中で、各社共様々な問題を抱えていると思います。特に近年は、事業や開発と一体となった知財戦略が重視される中、権利化のみならず、情報の分析や技術のオープン化など新たな取り組みを進める会社も増えており、知財のマネジメントやスキル向上、業務の効率化など新たな課題が生じています。知財問題研究会はどの企業にも共通して起こり得るこのような課題に対して、他企業との議論や意見・情報交換を通じ、新たな知見や解決策を見出す機会を提供します。また、企業見学や懇親会もあり、参加者の視野拡大やネットワーク構築にも大きく貢献します。参加者は業種、企業規模や経験年数などが多種多様で、貴重な経験になるとと思いますので、一段の成長をお考えの方は、是非、ご参加ください。

以上